

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870200767
法人名	特定非営利活動法人 泉月
事業所名	グループホーム さつき
所在地	愛媛県今治市泉川町1丁目1-29
自己評価作成日	平成21年8月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年9月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1ユニットでアットホームな雰囲気である。利用者がホームで安心して暮らせるように、体調管理、衛生面には日々気を付けている。暮らしの継続性や地域住民との触れ合いを大切に、出来るだけ馴染みのお店に行く事や毎日ホーム周辺を散歩している。個々の能力に合わせたレクリエーションを楽しむなど、利用者と職員がゆとりをもって触れ合える運営を図っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

日々の散歩コースでは、利用者の散歩される時間に合わせて、ご近所の方がご自宅庭の花の水遣りをして下さっている方もある。お花が好きな利用者の方は、近所の方に会えるのを楽しみに散歩に出かけておられる。年末の餅つき大会の折に、玄関前でぜんざいを振舞われ、通りがかりの地域の方達とも交流された。

事業所では、地域包括支援センターの方のお力添えをいただき、「認知症家族を支える会」の第1回の会合を9月に事業所で開催することになっている。会開催は、市の公報誌で案内していただいた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. <b>数日に1回程度ある</b> 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームさつき

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

青野 勇

評価完了日

平成 21 年 8 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人及び事業所の基本理念として「支えあい・助け合い」を掲げており、利用者に家庭的な雰囲気の中で穏やかな暮らしと自分らしい生活が守れるようホームの理念を作り上げている。地域の高齢者、そのご家族の助けになるようなホーム作りを目指している。直、職員には理念が出来た背景を話し、その目的を共有できるように取り組んでいる。 (外部評価) 運営推進会議でも、事業所の理念についてお話されている。又、管理者・職員は、理念を意識しながら日々のケアに取り組んでおられる。管理者は、法人やグループホームの役割や意義を踏まえて、事業所で「認知症家族を支える会」の開催を予定されていた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日々、ご一緒（職員と利用者）に散歩する時などに交わす、地域の人達との会話や挨拶の中でも着実に地域に溶け込んでいると実感を持っている。また、ホーム主催の餅つき大会や花見会等でも、地域の人達にも参加を呼びかけ交流を深めている。 (外部評価) 日々の散歩コースでは、利用者の散歩される時間に合わせて、ご近所の方がご自宅庭の花の水遣りをして下さっている方もある。お花が好きな利用者の方は、近所の方に会えるのを楽しみに散歩に出かけておられる。年末の餅つき大会の折に、玄関前でぜんざいを振舞われ、通りがかりの地域の方達とも交流された。	運営推進会議で、自治会長の方より「近隣には高齢者が多く、花見会等には声かけするとご一緒したい方もおられるのでは？」との提案をいただき、事業所が行う、花見・ピクニック・餅つき等の行事の折には、お声かけしていきたいと考えておられた。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 広報（自治会）配り等を行い、地域の人達と話す機会を多く持ち、私たちの専門性を活かした分野でお役立てるよう心がけ活動している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議の機会を捉え、パンフレットを配布し、 地域の人達に参加を募ることもしている。その中で、 ホームの活動報告及び話し合いの機会を持ち、ご意見 をくみ上げながらサービスの向上に繋げている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議では、利用者の状況や行事等、活動報告の他、毎 回テーマを決めて「インフルエンザ」「成年後見制 度」「災害対策」等についても話し合われている。ご 家族には、毎回会議の案内をお送りして、管理者は、 「テーマを考え参加者の意見を聞くことで勉強にな る。今後も皆が参加して良かったと思える会にしてい きたい」と話されていた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市の担当課には、我々はNPO法人の精神で事業を進 めており、お役に立てることがあれば、積極的に社会 貢献活動をしていきたい、と言った考えを伝えている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では、地域包括支援センターの方のお力添えを いただき、「認知症家族を支える会」の第1回の会合 を9月に事業所で開催することになっている。会開催 は、市の公報誌で案内していただいた。</p>	<p>管理者は、会開催時には、参加者の要望をお聞きしな がら、回を重ねていきたいと考えておられた。事業所 の認知症ケアの専門性を活かして、地域の方達の困っ ていることをお聞きしたり、認知症の理解を拡げてい かれてほしい。</p>
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員会や勉強会、また、説明会など機会あるごとに身 体拘束に関する問題について話し合い、その意識を高め ている。なお、その人らしさを奪う行為は、ホームの 理念に反する事としてして厳しく捉え指導している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関の出入り時にはチャイムが鳴るようになってお り、職員が対応するようになってきている。又、運営推 進会議時には、地域の方達に利用者の見守りをお願いさ れている。管理者は、職員採用時をはじめ、日頃より 折に触れて具体的な事例を挙げ、「拘束のないケア」 について話し合っておられる。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新規採用時には、虐待の具体的内容を挙げ、ホームの基本的姿勢（虐待は許さない）を明確にしている。また、虐待が見過ごされることがないように注意を払いながら問題意識の徹底を図っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議や職員会及びご家族への説明会でも、権利擁護について取り上げ、詳しく説明を行い、話し合いの機会を持っている。また、管理者はそうした研修に積極的に参加している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時は段階を踏みながら、ホームの現状等の説明を行い、重要事項等の説明を丁寧に行っている。また、何度かホームに来ていただいたり、お宅訪問する等して話し合う機会を設け、利用者やご家族が質問や疑問に感じる点は遠慮なく言っていただく様、常に申し上げており、十分に納得が得られるように図っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者やご家族が意見や苦情等を職員等に訴えやすいよう、不都合や不便はないか、こちらから問い掛けるようにしている。また、意見の出しやすい環境作りを心がけている。また、第三者の立場で相談できる人を立て、言いにくい事があれば相談出来る様にもしている。 (外部評価) ご家族来訪時には、ご家族の目線で「気付かれたこと等はないか」問いかけておられる。又、運営推進会議や家族会でも意見や要望はないか聞いておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>職員会議や勉強会には必ず、管理者兼代表者が出ており、その際に積極的な意見交換を行っている。また、常日頃から職員が意見を出しやすい職場環境作りを心がけており、更に、運営者の方から聴くようにもしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者は、洗面所を使いやすくするため整理棚を設けた時等も、職員の意見を聞かれた。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>事業所では、早出や食事係のアルバイトを置くなど、ゆとりのある介護を目指した事業運営をしている。また、休日希望制も取り入れながら、働く職場環境の充実に力を入れている。更に、職員に事業経営をオープンにし、広い視野で事業を取らえられるように図っている。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>職員自らが自己評価を行う中で、職業意識を高め、さらに広い視野で介護を捉える事が出来るよう取り組んでいる。また、全職員が外部研修を受けられる機会を設け、その外部研修内容を職員会等で発表することで、未受講者への浸透を図っている。直、資格取得に関する経済的な支援もしている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>同業グループとの連携が取れるようにネットワークを構築している。また、グループホーム連絡協議会には前向きに取り組んでおり、相互研修、管理者交流会にも積極的に参加したいと考えている。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>入居前にはご本人と何度も会い、これまでの暮らしについて時間をかけて話をうかがい、聴きだせるように努めている。また、体験入所を積極的に勧めており、その体験を通し本人の希望、要望や不安を傾聴しながら向き合っている。入所時には、管理者が毎日様子を伺い、安心した暮らしが出来る様に支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>相談を受けた時から入居されるまで、どのような点に困っておられ、どういった点を求めておられるか、十分に伺う様にしている。ご家族からの不安や相談には誠意を持って応えてゆく事が事業所の運営方針である。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居相談時、事情を伺う中で、必要に応じて連携施設や他の事業所、施設等の支援制度（介護保険）について説明し、助言している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>リハビリ体操や唄、レクリエーションを毎日職員と一緒にしており、そうした共同生活の中で支えあう関係を築くことが出来ていると思う。また、家事なども一緒に助け合っている。先人の知恵を学ぶ機会もある。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族様に、電話やお便り等で利用者ご本人の日頃の様子が常に届くよう、情報を入れている。何時でも話し合いが持て、共に協力しながらご本人を支えていける関係を大切にしている。また、家族会、誕生会やお花見会、餅つき等の季節の行事にはご家族に参加を呼びかけ、皆で楽しめる機会を設けている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みの美容院や喫茶店、福祉施設などを利用しており、近くで開催されるカラオケ大会や花、趣味の展示会等に行っている。また、記念写真を送る、電話をする、手紙を出すなどして関係が途切れないよう心がけている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>近所にある馴染みの喫茶店に、コーヒーを飲みに出かけることもある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホーム内は一体化しており、レクリエーションやおやつ、ティタイム、散歩や外出等、利用者同士の交流時間は多い。そうした中で、職員は互いの関係に配慮して座席も決めている。相互関係を大切にすることで支えあえる関係が築かれている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 一度ホームに入居された方とのご縁を大切にし、退居後も機会を捉え、その後の様子をご家族に伺うなど、相談にのらせて頂いている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時はもとより、日頃よりご本人やご家族に生活面での希望を傾聴している。また、これまでのライフスタイルを受け止め、出来るだけご本人に合った環境作りに努め、その人らしい生活が図れるよう取り組んでいる。 (外部評価) 個別の介護記録や日報・夜勤報等には、職員の気付いた事やご本人の話された言葉等を書き留め、介護計画作成時にはそれらをもとに職員で話し合われている。	ケアマネージャーは、「ゆとりを持ちながらその人らしい生活を守っていきたい」と考えておられ、さらに、利用者の本音を引き出せるよう、センター方式の活用をすすめていきたいと考えておられた。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にアセスメントを行う事やこれまで暮らしていた地域の人にも生活歴等を聴き、情報把握に努めている。そうした事を参考にし、利用者が安心して暮らせる生活環境作りに役立っている。また、入居後も面会時等で聴けた情報も活かせる様に記録に残しながら活かしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りや日々の記録から、利用者の心身状態が把握できるようチェック機能を構築している。職員会や勉強会等でもその人に合った過ごし方が出来る様に話し合っている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>担当者を班別に決め、経過記録をつけながらモニタリングを行っている。本人やご家族からは、日頃からご意見や希望を聴きながら、職員会や勉強会で話し合い現状に合った介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、担当者を中心に職員で話し合い作成され、ご家族に送付されている。ご家族来訪時には計画内容を説明して意見を聞いておられる。計画は6ヶ月毎に見直しをされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個人記録の中で、ケアの有り方をわかりやすくまとめ記載し、日々のケアに活かされているか確認(チェック)している。また、日報、夜勤報の申し送りのあり方を構築しており、職員が情報を共有出来る様にしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みの理美容院の送迎や医療機関への受診援助、友人や親戚宅等への訪問援助や、自宅への一時帰宅の支援など、出来る事は柔軟に支援している。また、外部ボランティアの活動を受け入れる等もしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>消防署に依頼し、普通救命救急講習(蘇生法、AED講習)を受けている。ボランティアによる演目披露や地域で開催する文化祭や展示会には良く出かけている。また、グリーンピア等の施設を利用し、自然との触れ合いを大切にしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) ご本人やご家族には、入居時に医療を受ける際の希望 を聴き、要望に沿って対応している。また、身体状 態の異変や異常には早期発見、受診を心がけている。 また、症状によって医療機関を家族と相談しながら選 んでいる。</p> <p>(外部評価) 入居時にご家族と話し合い、定期受診は、ご家族が同 行されている。又、協力医が月に1度往診に来られて いる。急な受診は、職員が同行されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 日常生活において利用者の細かな異常や異変に気付 く、報告すると言った体制を構築している。受診につ いては、毎日の様子を観察している責任者が、かかり つけ医やご家族と相談しながら判断している。場合 によっては、かかりつけ医の看護師がホームに来て利 用者の様子をみることもある。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入退院時には、基本的に管理者自らが責任を持って病 院関係者及びご家族等との連絡を密に取り合い、情報 交換や相談に努めている。また、関係医療機関の関係 者とも日頃から連絡を取り合っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化や終末期の問題は、家族会や説明会等でも、関 係者と話し合う機会を多く持っている。連携医療機関 やかかりつけ医との問題も事前に話しており、事業所 としては、出来る事や出来ない事を明確にしながら取 り組む姿勢を示している。</p> <p>(外部評価) 終末期の支援について事業所では、ご家族・職員と話 し合い、事業所の「出来ることをして」ご本人を支え ていきたいと考えておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署に依頼し、年一回程度、事故、急変時の対応等の訓練を受けている。また、事業所のマニュアルをもとにホーム内研修を行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の避難訓練は全職員が参加するかたちで、年に2回程度行っている。運営推進会議でもテーマに取り上げ話し合っている。災害時の連絡先や自治校区の自主防災組織図をホーム内に示し取り組んでいる。 (外部評価) 運営推進会議では、市の防災マップをもとに、避難場所の確認や対策の話し合いをされている。又、災害時「地域のお手伝いができることがあれば言ってほしい」と伝えておられる。訓練を終えた後には、課題について話し合われている。調査訪問時、消防署の方がスプリンクラー設置について説明に来られており、事業所では来年設置する予定になっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の気分を壊さない声かけやコミュニケーションのとり方は、職員会や勉強会でも、常に心がけるよう話し合っている。プライバシーや個人情報を守る事の重要性やそうした職業意識を高める取り組みを行っている。 (外部評価) 職員は、利用者の居室に入る時はノックし、声かけするようにしておられる。調査訪問時、職員は、おしぼりたたみをされる際「お手伝いしてもらってもいいですか」「お願いできますか」と利用者へ声をかけておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食べ物や飲み物には出来るだけ選択の幅を持たせ、ご本人の希望に沿うようにしている。また、レクリエーションや作業は強制せず、無理の無い範囲で能力に合わせたものを選んでもらっている。また、普段の関わりの中で、本人がどのような希望や要望を持っているのか、聞いたり感じたりしながら介護に携わっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合を優先しないよう常に話し合っている。「自分らしい生活」はホームの理念であり、その人らしい生き方、その人に合ったペースでの暮らしの支援に重点を置くよう、運営者、管理者、職員は心がけている。また、日中、職員の数を増やし、ゆっくりと一人ひとりに向き合う時間を大切に、利用者の暮らしの希望に添える努力をしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容院利用の際、希望者によっては、かかりつけの店に予約を入れ、送迎支援をしている。また、職員が利用者の容姿に関心を持ち、その人らしさを大切にしながら暮らせる支援を心がけている。入浴時には着替えの服をご本人に選んでもらったり、利用者専用の化粧箱を用意し外出やイベントの時に使用して頂いている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 主な調理に関しては外注しているが、利用者さんの中には積極的に台所の手伝いやお皿拭きなどの後片付けを手伝われる方もおられる。また、日常的にとはいかないものの、一緒におやつを作ったり、食材の下ごしらえを手伝ってもらう機会を設けている。 (外部評価) 事業所の食事は、昼・夕食は、調理された主菜が届くようになっており、副菜や主食は職員が手作りされている。職員の交代等もあり、調理に要する時間や人手が取れなくなったこともあり、主菜を外注することになった経緯があるようだ。週2回は、利用者とおやつ作りをされており、利用者の中には食器洗い等を職員と一緒にされる方もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態にあった料理が提供出来る様に食事担当者を決めている。食事の摂取量や水分量については、毎食チェックして記録に残し、必要量が取れているか一人ひとり気をつけている。また、嚥下困難な方や偏食の利用者には、形態や調理方法を工夫している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きや義歯洗浄を行い、夜間には定期的に義歯のポリドント消毒をしている。また、口臭の気になる方に関してはモンダミン等を使用しての口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に毎日個人の排泄状態を記載しており、職員全員が把握できるようになっている。この表を元に申し送りを行い、毎日排泄トラブルのない支援を心がけている。日中はこまめにトイレ誘導を行い、入居者の状態に合わせた支援を行っている。 (外部評価) 職員は、個々の排泄パターンを把握して、誘導にてトイレで排泄できるよう支援されている。排泄時、衣類の着脱等は、ご本人の力量に合わせて、出来ることを行ってもらえるようサポートされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の利用者には、その人の好みや体質等を考えながら豆乳や牛乳等を飲んで頂き、出来るだけ自然排便に向けた支援をしている。また、個人にあった漢方薬（緩下剤）があればその薬を継続するようにしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 男女の入浴時間をずらしたり、希望を聴いたりして、なるべくご本人の希望時に入浴が出来る様に配慮している。また、身体状態を考慮しながら、特殊浴槽を使う支援をしている。 (外部評価) 水、日曜日以外は入浴できるようになっており、入浴の順番は、話し合いで決めておられる。入浴剤を入れたり、お風呂に、これから入る人と出られた人とおしゃべりされることもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、倦怠表情の著しい方には居室で横臥して頂くなど、適時休める無理の無い生活を送れるように支援している。安眠の妨げになる事を出来るだけ排除したり、就寝前にはゆったりと過ごしてもらい、刺激の少ない飲み物を準備して、安眠につなげている。また、睡眠状態をチェックし日中の過ごし方なども考えた支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬に関する事は、日々の申し送り項目の中に入れ、服薬の変更やあり方等について確認している。また、服薬管理の徹底や利用者の症状、変化に早期に気付く為の取り組みを行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションや創作活動、パズルや計算問題等、その方の得手不得手に合わせて声かけし、支援している。また、写真を飾る、金魚を飼う、生け花、庭で草木を愛でる等、個人々の関心事や趣味の中で楽しめる支援を行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お天気の良い日には毎日散歩に出ている。また、いつも行けるとはいうわけではないが、ご本人の希望等もお聴きし、ドライブ、季節の花見、文化祭、展示会や喫茶店等に出かける等の外出支援をしている。ご家族等にお声をかけ、一緒に出かけることもしている。 (外部評価) 日々の散歩の他に、ご本人の希望を聞きながら、ドライブや地域行事・花見や外食等にも出かけておられる。調査訪問時、玄関前には個々の手押し車や車椅子があり、それぞれの状態に合わせて、外に出て楽しむ機会を作っている。「ご自宅の様子を見に帰りたい」と希望されるような時には、職員と一緒に外へ出て、しばらくご自宅で過ごされている。民謡ボランティアの方が来られた時には、その後一緒に喫茶店に出かけることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人が希望される場合は、ご家族と相談し、自由に使えるお金をホームでお預かりして外出時等に遣って頂いており、その人の能力にあった金銭管理を行い支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) レクリエーション等でも、暑中見舞いや年賀状等を出す支援を行っている。また、ときには家族に、ホームから電話をかけ、とりつくなどの支援もしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居間から、庭への出入りが自由に出来、玄関からは植物を鑑賞しながら寛げる場所をつくる等、四季の花を楽しめる環境を大切にしている。玄関やロビーには、活けた花や観葉植物を飾っており、心地よい生活環境には特に力を注いでいる。また、音などの刺激を防止するなど必要に応じて適時、工夫を凝らしながら支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関前にはテーブルと椅子が置かれてあり、利用者がちょっと座れるような場所作りがなされている。玄関やロビー・居間には、観葉植物や季節の花、利用者の日々の写真や小物飾り等が随所に飾られていた。庭の西洋朝顔を「きれいだね」と見ている利用者の様子がうかがえた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ロビーと居間とで思い思いに過ごせるようにしている。テレビ番組にこだわりのある利用者は、ロビーに移りそこでゆっくりと自由にテレビを見られている。また、畳やソファの配置を考え工夫しながら、絶えず過ごしやすい居場所作りを考えている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居当時から、馴染みの物や道具を持ってきてくださる様、ご家族にもお願いしており、筆筒や鏡台、使い慣れた折りたたみベッド等を持ってこられている利用者もおられる。また、ご家族やご自分の写真を飾ったりして、居心地の良い居室作りを常に考えながら工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>お若い頃から大切に使われてきたタンスや鏡台、趣味で集められた人形やご主人の位牌等を持ち込まれていたり、お孫さんやご家族の写真に囲まれた居室等、それぞれにその方の個性がうかがえた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>下肢に障害のある方はなるべく洗面所やトイレの近くに座ってもらったり、椅子や小テーブルの置き場所を決める事や通路や公共の場を塞ぐ形で物を置かないよう整理整頓にも気をつけている。また、安全性と自立度を考え、ワイヤレスや滑り止めマットを配置している居室もある。</p>	